

**成果報告書**  
(公演・展覧会・研修用)

団体名称	株式会社オフィスTEN
担当者連絡先	(担当部署) (氏名) 川又由美子 (電話) 03-5787-6341 (Fax) 03-5787-6905

1. 概 要

事業名	《契約件名》	西本智実プロデュース音楽教養番組『Music Edutainment』～次世代の音楽を紡ぐ～
事業期間	令和 3年 2月 8日 ~ 令和 3年 3月 31日	
事業の必要性	本事業の意義	<p>音楽教養番組『Music Edutainment～次世代の音楽を紡ぐ～』は、独創性ある音楽文化コンテンツを題材に国内外において展開する音楽放送事業であり、同時に「持続可能な開発目標 (SDGs)」の四つの目標を実践する国際的社会貢献型事業である。両事業の有する広義な社会性は、国の委託事業に準ずる特徴を有するものと考えられる。</p> <p>西本智実プロデュース音楽教養番組『Music Edutainment～次世代の音楽を紡ぐ～』では、音楽の多様性表現を音楽と映像で共創する。そして、事業の段階的拡大(地域→国内→海外)及び多角化によって、芸術団体としての持続的な活動のあり方、継続的な新しい音楽事業モデルを示すものである。</p> <p>音楽教養番組『Music Edutainment～次世代の音楽を紡ぐ～』は、未来に向けた持続可能な社会の構築にむけて、世界的指揮者・総合舞台演出家西本智実が多くの国民や海外の人々との価値観を共有し、人々の交流を実現する音楽メディア事業となる。本番組事業は、単なる音楽番組にとどまらず、広く社会、人、教育機関、メディアとその価値を共有する。そして、言語を超越し、国や地域や世代を繋ぐ唯一無二な可能性を発揮する社会的に広義な音楽文化として活動する。また、音楽メディア事業を展開しながら、社会活動に貢献する知的財産運用による文化コンテンツ事業という側面も有する。</p>
	本事業実施にあたって活かせる団体の強み	<p>本企画の音楽を核とする社会貢献活動は、2012年に創設されたイルミナートフィルハーモニーオーケストラによる国際的な公演活動(2013年～2019年パチカン国際音楽祭、2014年～2019年世界遺産関連公演(パチカン、長崎・平戸、高野山、薬師寺)2014年京都南座・新橋演舞場でのオペラ「蝶々夫人」、2015年ASEAN諸国と世界初演シリーズ「サイゴンオペラハウス公演」、2017年能とオペラのイノベーション作品世界初演「ストウパー～新卒塔小町」、2018年中国招聘7都市8公演、ヨーロッパ文化支援財団世界初演シリーズ指定オーケストラなど)を礎にしている。そして、同オーケストラの「西洋と東洋の文化の融合」「現代と歴史・伝統文化の融合」、「アジアと日本の文化交流・教育交流」、「世界規模の文化・歴史の変遷の検証」、「音楽科学としての検証・分析・開発」を主題とした国際的な音楽活動・教育活動は、世界各国の人々に対し、音楽のもつ多様な可能性を示し続けている。</p> <p>こうした活動の源泉は、芸術監督西本智実の活動の心底にある音楽・芸術・人文科学に対する多様性の共有の理念である。この理念は、ポストコロナ社会の持続可能な社会実現の道程と大きく重なるものと考えている。</p>
事業のねらい、波及効果など(事業の趣旨)	<p>●音楽によるwell-being=多面的に持続する幸せを実践する</p> <p>●誰もが音楽を享受できる、次世代の音楽教育を開拓する</p> <p>本事業では、世界の舞台で多様な音楽活動を展開する指揮者西本智実がプロデュースする、誰もが音楽を享受できる音楽教養番組『Music Edutainment～次世代の音楽を紡ぐ～』をメディア事業(番組販売事業、および「持続可能な開発目標 (SDGs)」支援企業他に対する協賛事業)として運営する。同番組では、次世代の音楽教育を開拓する教育とエンターテインメントの要素を兼ね備え、全世界全世代を対象とする。世界に先駆けた先進性・特殊性のある作品創りの手法として、視覚的には捉えられない人間の情動や心象風景を、研究者・医療関係者・プロフェッショナルな音楽家によるR&amp;D研究開発し、検証的研究から『音楽と映像による共創』で表出する。</p> <p>また、国連加盟国196カ国が2030年までに達成するために掲げた「持続可能な開発目標 (SDGs)」から四つの目標を『音楽と映像の共創』によって表出することで、人類の普遍性を世界の人々と共有する。そして、コロナ禍の影響で外出困難となった人たち、断絶した人々(地域、社会、国内外)の交流を音楽によって再構築する。</p> <p>障害や疾患、育児や介護などを理由に劇場や展示鑑賞が困難な人たちも、好きなときに好きな場所から芸術に親しめる開かれた場を実現し、音楽によるwell-being=多面的に持続する幸せを実践する。</p>	

2. 公演・展覧会・研修について

<p>公演・展覧会・ 研修名</p>	<p>西本智実プロデュース音楽教養番組 『Music Edutainment』～次世代の音楽を紡ぐ～』</p>
<p>公演・展示・研修 研修期間</p>	<p>令和 3年 3月 29日 ～ 令和 3年 3月 31日 公演のみ記載→《ステージ数》 <span style="float:right">ステージ</span></p>
<p>実施場所</p>	<p>イツコムチャンネル https://www.itscom.co.jp/ch/ &lt;放送CH:10ch&gt; 3月29日17:00～/3月30日17:30～/3月31日19:30～ &lt;放送CH:102ch&gt; 3月29日15:00～/16:00～/3月30日15:00～/16:00～ (所在市町村: ) 3月31日15:00～/16:00～ &lt;放送CH:11ch&gt; 3月29日10:00～/20:00～/3月30日10:00～/3月30日20:00～ 3月31日20:00～</p> <p>ケーブルテレビ品川 https://www.cts.ne.jp/ &lt;放送CH:10ch&gt; (所在市町村: ) 3月29日:9:00～/14:00～/17:30～/19:30～ 3月30日:9:00～/14:00～/17:30～/19:30～ 3月31日:9:00～/14:00～/17:30～/19:30～</p> <p>横浜ケーブルビジョン https://www.catv-yokohama.ne.jp/ &lt;放送CH:11ch&gt; (所在市町村: ) 3月29日:19:30～ 3月30日:19:30～ 3月31日:8:30～ 3月31日:19:30～</p> <p>2021年 番組映像を元に、埼玉県下の学校にて生徒を対象にしたワークショップを実施予定。生徒への導入説明実施済み。 (所在市町村: 埼玉県さいたま市 )</p> <p>2021年 番組映像を元に、大分県下の教職員を対象とした講演を実施予定。現地での説明実施済み。制作会社 株式会社オフィスAct5に委託する。 (所在市町村: 大分県竹田市 )</p> <p>(所在市町村: )</p>
<p>ケーブルテレビ 番組放送</p>	<p>音楽は、言語の制約をも超越し「感動」など人間の情動に直接関与するが、未だその全容は科学的に解明されていない。「音楽の謎と不思議」を指揮者西本智実が演出構成し、季節を感じる鳥や虫の声、雷など自然の音、時計の音など生活音から民族音楽までも網羅し、西本智実指揮&amp;イルミナートフィルのクラシック音楽で誰もが楽しめる内容。 さらに、SDGs持続可能な開発目標から四つのテーマ（『質の高い教育をみんなに』『ジェンダー平等を実現しよう』『人や国の不平等をなくそう』『パートナーシップで目標を達成しよう』）が表出する演出。</p>
<p>主な出演者  スタッフ</p>	<p>◆プロデュース・演出構成・指揮：西本智実 ◆指揮・演奏：木越洋 ◆演奏：イルミナートフィルハーモニーオーケストラ（64名）</p> <p>◆撮影監督：会田正裕 ◆照明デザイナー：原中治美（株式会社大阪共立） ◆録音：川島修（TOKYO FM）、株式会社タムコ ◆収録進行：山中舞（株式会社スタッフユニオン） ◆映像編集：株式会社アップサイド ◆R&amp;D：大林典代・松田典子・小野寺彩子・大竹うらら 伊佐地里帆 ◆音楽イラスト：平島勉、西浦陽子 ◆オーケストラインスペクター：大竹うらら ◆オーケストラライブラリアン：荒井風香 ◆ステージマネージャー：杉浦友彦 ◆照明チーフオペレーター/機材：巽敬治郎、株式会社大阪共立 ◆照明・楽譜によるQ出し：竹之内純子 ◆映像・楽譜によるQ出し：片野敦子（3/15）、榛葉光治（3/16） ◆プロデューサー助手：久保田純 ◆楽器レンタル：搬入：株式会社アイエムエス ◆舞台スタッフ：有限会社パルフェ ◆制作協力：iTSCOM</p>

3. 事業の成果

事業の成果	<p>【事業展開】          地域：地域単位のメディア（地域メディア・ケーブルTV他）を活用した全世代を対象とした本音楽教養番組を放送実施（ケーブルテレビ3局）。          国内：①埼玉県下における学校において、本音楽教養番組を教材として、生徒を対象としたワークショップを実施予定。生徒への導入説明は実施済み。          【収入予定 120万円】          ②制作会社株式会社オフィスAct5に委託し、本音楽教養番組を教材とした活用方法についての講演を、大分県下において教職員を対象として実施予定。現地での説明実施済み。          【収入予定 30万円】          海外：西本智実の中華人民共和国におけるマネジメント会社と今後の展開について打合せを重ねている。</p>
事業における工夫	<p>【音楽・映像を通しての「持続可能な開発目標（SDGs）『質の高い教育をみんなに』『ジェンダー平等を実現しよう』『人や国の不平等をなくそう』『パートナーシップで目標を達成しよう』』の表出】          言語を介さずに音楽と映像を通しての表出することにより、言語や年代を問わずに視覚的に捉えることができる。          【言語を使用せず、音楽と映像のみで表出】          言語にとらわれず、国内外の全世代対象とした番組として、音楽と映像のみで番組制作をした。          【イルミネートR&amp;D選曲検証】          “自然の音、季節や情景音をオーケストラの多様な楽器群で表現する”という番組企画に際し、番組内で取り上げる幾つかの虫の鳴き声と、オーケストラの楽器の音の周波数などをリサーチ、比較する事により、科学的根拠からみても精度の高い再現を目指す事を目的とし選曲にあたった。          【イルミネートR&amp;Dによる検証】          次世代の音楽教育を開拓する教育とエンターテインメントの要素として、音楽R&amp;D及び、医療関係者によるR&amp;Dを実践することにより、今回だけではなく、今後の活動にも繋げてゆく。</p>
事業の検証	<p>【全体検証と開発】          &lt;事業全体&gt;          番組視聴者からの感想や、イルミネートR&amp;Dの検証を踏まえ、教育とエンターテインメントの要素を兼ね備えつつ、教育プログラムの一環としての活用方法の質を継続的に高めてゆくとともに、音楽と映像により「持続可能な開発目標（SDGs）」を表出することにより、人類の普遍性を世界の人々と共有してゆく。          &lt;番組に対する音楽科学的検証&gt;          イルミネートR&amp;Dによる番組検証：別添資料参照          &lt;収益力強化に係る今後の課題&gt;          本音楽教養番組を元にしたワークショップ及び講演を全国展開してゆく。          R&amp;Dの検証を踏まえた、番組映像プラスαの資料を提示し付加価値をつけ、制作会社に委託の上、展開する。          ①埼玉県下 ②大分県下 他</p>
感想・評判	<p>&lt;番組視聴者の声&gt;          50代男性          「本作品は、これまでの音楽番組には無い、音楽と映像による共創で表現し、また、音楽科学とエンターテインメントの要素を兼ね備えた内容で演出構成されており、お子様から大人まで、かつ言語を必要とせず、様々な方々が視聴できる番組構成でした。大変、素晴らしい作品だと思います。」          40代女性          「短い映画を楽しませていただいたようで感動しました。          虫の音の表現やイラストがあって、コロナ禍で身動きが取れない小学生が学校の教室で観るのにちょうどいい長さで、親として学校教材になるといいなと感じました。」          30代男性          「通常のオーケストラの映像とは違い演奏者の近くで撮影しており、自分もオーケストラの一員になったかのように感じる映像だった。          普段見ることのない角度からの映像や演奏者の指使いまではっきりと見れるのが新鮮だった。          また、音もその場にいるかのような臨場感があり、音楽に興味のない私でも映像に引き込まれた。          ナレーションやテロップを使わず音と映像で魅せるという演出は理解できるが、音楽に知識のない者からすると曲名や選曲の意図、曲順のストーリーを知りたくもあった。」          &lt;育成対象者に対するスタッフ・共演者等の声&gt;          ・枠にとらわれず、見た人それぞれが自由に感じ取ることができ、考え、そして想像することができると思った。          ・短い時間に様々な内容を盛り込み、とても意欲的な番組になっていると思う。          ・それぞれの場面に、こちらの意図した事を伝える手がかりとして、何かヒントなどを付け加える事ができるとよりわかりやすくなるのではないかと思います。          ・それぞれの場面か最後に、曲目が入っていると一さらにわかりやすいのでは、と感じた。          ・世代や国境を越えて、視聴者を飽きさせない、心に響く番組になっていると思う。</p>

西本智実プロデュース音楽教養番組  
『Music Edutainment～次世代の音楽を紡ぐ～』  
イルミナート音楽科学 Research and development (R&D)

## 調査員

西本智実、大林典代、松田典子、小野寺彩子、大竹うらら、伊佐地里帆

## ●音楽と言語・情動

古今東西の人間社会において音楽の存在しない社会はない。音楽は言語と同様に人間にとって普遍的な心理機能であり、現代では音楽は高次認知機能の一つとして捉えられている<sup>1</sup>。

科学的には、言語に関与する脳の部位(言語中枢)は、言語のみでなく音楽の認知・表現にも関与することが知られており、発語を司る運動性言語中枢(ブローカ野)は音楽の表現に<sup>2</sup>、言語理解を司る感覚性言語中枢(ウェルニッケ野)は音楽の認知に関わる<sup>3</sup>と考えられている。また、音楽と情動の関連性の研究では、音楽を聞いた際の情動は多幸感に関連する脳内の報酬システムに関わっており、一般に生物学的な生存とは無関係であるとされる音楽が実際は生存に関わる本当の意味での情動に関わっていることが示唆された<sup>4</sup>。海外の研究では、音楽は、青年期において自分を取り巻く世界を理解する事や情緒面での要求を満たす事においても重要な役割を果たすことも報告されている<sup>5</sup>。

## ●テンポ

世界には多様なテンポが存在する。本番組では、雅楽『越天楽』、ラヴェル『ボレロ』、チャイコフスキー『白鳥の湖』より『スペインの踊り』が取り上げられている。(『ボレロ』のリズムは、いつの間にか日本民謡『ソーラン節』に変化している。)

音楽のリズムやテンポは人の行動にも大きく影響を与えている。科学的な研究結果の具体例としては、テンポの速い音楽を聴くと自転車を漕ぐ際に耐えられる負荷が上昇する<sup>6</sup>というプラスの影響や、一方で運転中では信号無視等の事故が増加するというマイナスの影響<sup>7</sup>も報告されている(テンポの遅い音楽なら事故が減る可能性も考えられる)。さらにテンポの遅い音楽が流れているとテンポの速い曲の場合よりも客の滞在時間が長くなり、レストランで飲食に使う金額が増えたり<sup>8</sup>、店舗販売での売り上げが上昇したりする<sup>9</sup>、との報告もあり、テンポは人の心理だけでなく実際の行動にまで影響することがうかがわれる。

## ●音楽と時間

番組後半では、ポンキエツリ作曲:歌劇『ラ・ジョコンダ』より『時の踊り』が演奏される。音楽と時間の関係性は科学的にも様々な見地が述べられており、特に時間認識や記憶と絡んでくるものが多い。昔の音楽を聴いて当時の思い出が鮮明に甦ってきた、ということは誰も経験があると思うが、実際に音楽は記憶の想起に対して大きな影響を持つようで、医療分野では脳卒中後の患者で病前に好んでいた音楽を聴いた場合では、聴かない場合よりも言語的記憶や注意力が改善したとの報告<sup>10</sup>もある。このような音楽の影響力は、記憶の形成は感情により促進されるが、音楽はしばしば強い感情を引き起こすため、と説明されている。

## ●ゲシュタルトの原理

音楽認知にはゲシュタルトの原理が関わっている。

ゲシュタルト心理学では、知覚は単に対象となる物事に由来する個別的な要素によって形成されるのではなく、それら個別的な要素には還元出来ない全体的な枠組みによって大きく規定されると考える。つまり、全体は単なる個別の要素の集合以上の意味を持つ、と考えるのであり、ここで全体的な枠組みにあたるものをゲシュタルト(形態と呼ぶ。例えば果物が書かれた絵を見て、それが線や点の集合ではなく「りんご」であるように見える事などはゲシュタルトの働きを考える例である。

音楽認知の核心もゲシュタルトの確立である。聴覚刺激として入力された個々の要素(音韻単位や音符の系列)を全体として大きな単位で解釈することにより、音楽として知覚される'(ただし、学習や記憶が音楽認知に与える影響も大きい<sup>11)</sup>)。例えば、単純な旋律をハ長調と嬰へ長調とで演奏した場合、二つの調における演奏では個々の音は異なっているにも関わらず、同じ旋律であるとすぐにわかる。これは、音を旋律として、つまり全体として捉えているからである<sup>12)</sup>。本番組内では表彰式の曲として広く知られるヘンデルの『見よ、勇者は帰る』(オラトリオ『マカベウスのユダ』より)がまず短調、次に長調で演奏されている。長調と短調では受ける印象や世界観が大きく異なるが、両者を同じ曲と認識できるのは同様の原理が働いているためである。

また、バッハ『音楽の捧げもの』より『3声のリチェルカーレ』『6声のリチェルカーレ』では、各個人を表現する音楽モチーフが異なる楽器と音楽的展開を表現している。多様な楽器のそれぞれのモチーフにより全体として一つの音楽が生み出されるのも、広義の意味でのゲシュタルトと言えるかもしれない。さらに各パートが赤・青・緑の光の三原色で照らされる部分では、異なる色(光)が交わることで様々な色が生み出され、美しく調和することが視覚的に表現されている。三原色はあらゆる色を生み出すことのできる無限の可能性を持つが、これは人などの霊長類は赤・青・緑の三種類の色覚受容体(色覚を認知する視細胞)を持つため、あらゆる光の色を三つの原色の混合比として捉えており、そのため逆説的に「三原色はあらゆる色を生み出す」と認知するのである。このような表現や認知の仕方は人間社会の在り方に対しても示唆的であり、各個人が楽器の演奏体験や芸術作品の鑑賞によりパートナーシップを実践的に体験したり、人の認知の仕方を科学的に理解したりすることは、社会の中での様々な可能性に繋がっていきと考えられる。

---

<sup>1</sup> 阿部純一 (2017) 日本心理学会機関紙 心理学ワールド 79号

<sup>2</sup> Burkhard Maess, *et al.* (2001). Musical syntax is processed in Broca's area: an MEG study. *Nature Neuroscience*, volume 4 pages 540–545

<sup>3</sup> Yizhen Zhang, *et al.* (2017). Musical Imagery Involves Wernicke's Area in Bilateral and Anti-Correlated Network Interactions in Musicians. *Scientific Reports*, volume 7

<sup>4</sup> 藤沢隆史 他 (2009) 音楽を鑑賞する脳 情報処理 Vol.50 No. 8

<sup>5</sup> A C North, *et al.* (2000). The importance of music to adolescents. *Educational Psychology*, Jun. 2000

<sup>6</sup> A. Szabo (1999). The effects of slow- and fast-rhythm classical music on progressive cycling to voluntary physical exhaustion. *J.Sports Med Phys Fitness*, 1999 Sep;39(3):220-5.

<sup>7</sup> Warren Brodsky (2001). The effects of music tempo on simulated driving performance and vehicular control. *Transportation Research*

<sup>8</sup> Clare Caldwell, *et al.* (1999). Play That One Again: the Effect of Music Tempo on Consumer Behaviour in a Restaurant. *European Advances in Consumer Research*, Volume 4

<sup>9</sup> Klemens M. Knoferle, *et al.* (2012). It is all in the mix: The interactive effect of music tempo and mode on in-store sales. *Journal of Consumer Policy*, Marketing Letters volume 23

<sup>10</sup> Lutz Jäncke (2008). Music, memory and emotion. *Journal of Biology*, August 2008

<sup>11</sup> Rens Bod, *et al.* Memory-Based Models of Melodic Analysis: Challenging the Gestalt Principle. *Journal of New Music Research*, March 2002

<sup>12</sup> 大串健吾 他 (2020) 音楽知覚認知ハンドブック 北大路書房

## オープニング「組曲 惑星より“木星”」

宇宙空間を見据えた今後のイルミナートフィルの展望を感じさせるスケールがあり、オープニングとしてこれから始まる番組への期待感も高まる。

## 「虫の音」

自然の音、季節や情景を弦楽器・トライアングルによる虫の音を表現。

R&D で検証した周波数などを取り入れた。

「コオロギ」「鈴虫」「ひぐらし」の絵と弾いている手元の映像がリアルで理解し易い。

取り上げた各虫の音を担当者を決めてから演奏する方法も今後の課題にしたい。

## 「田園」

音だけでなく、視覚情報を同時に提示することにより、広い年齢層に言語なしでも音楽による具体的な事物、状況や情景が伝わる。

意見として、フルート→ナイチンゲール、オーボエ→ウズラ、クラリネット→カッコウなどのようなイラストがあると更にストーリー展開もできる。

しかし、視覚的情報が多すぎると聴覚の意識は薄れるだろう。

SDGs「4. 質の高い教育をみんなに」

## 「幻想交響曲」

人間の孤独や情熱といった視覚的に見えない情動を音楽で表現。更に、音楽によって生まれた心象風景をオーケストラとカメラワークで表現。

先ず『何だろう?』と好奇心を掻き立てられ、その後、音楽による dur と moll の響きの不協和音的重なりと、音楽的解決(和声・リズム)に至らない心地よくない気持ち(不安 暗闇)を表現する音楽。それと連動したストーリー性にある視覚的に表現した。「音楽の情動」「ブーロカ野とヴェルニッケ野」

## 「雷鳴と稲妻」

従来の演奏会では、観客は指揮者の後ろ姿のみを見ているが、この番組では、指揮者や奏者の演奏中の手元や表情、音楽のニュアンスなども間近で感じる事ができる。

SDGs「4. 質の高い教育をみんなに」

---

### 「オラトリオ “マカベウスのユダより”見よ、勇者は帰る」

♭ # ナチュラル一つで世界観が変わる。「音韻修復」「音の補完」

広く知られるオリジナル曲(dur)を moll にするだけで、印象が大きく変化する。

音楽表現にストレスを与え、そこから解放される心的要因は今後、医療分野との連携で解明される期待が持たれる。

SDGs「5.ジェンダー平等を実現しよう」

「10. 人や国の不平等をなくそう」

### 「越天楽」

イラストと楽器の説明が完璧だった。

SDGs「10. 人や国の不平等をなくそう」

幅広い表現を持つ西洋楽器および技法は世界に残る民族楽器の模倣ができる。＝演奏者が減少する民族音楽の復刻が可能である。SDGs持続可能な開発目標17の目標より「10. 人や国の不平等をなくそう」を表出。

### 「ボレロ→ソーラン節」「ボレロ→スペイン舞曲」

文化融合が実現できていると感じた。様々な国の独自なリズムや音楽とコラボレーションが実現できる。

SDGs「10. 人や国の不平等をなくそう」

### 「音楽の捧げ物」

対位法的音楽と各楽器を一生命個人と見立てた演出で、同じあるいは異なる楽器とパートナーを組みながら音楽的展開を視覚化。人間社会のあり方と可能性を表現。

カメラワークや照明で音楽の

色の三原色と加法混色と対位法的音楽とカメラワークによる映像と音楽による対位法を表現。

SDGs「4. 質の高い教育をみんなに」「17. パートナーシップで目標を達成しよう」表出。

### 「歌劇 ラ・ジョコンダより“時の踊り”」

音楽による時間軸の超越

SDGs「5.ジェンダー平等を実現しよう」

### エンディング 「組曲惑星より“木星”」

総括。

音楽により地球上の自然や文化、そして時空の旅をした。

人類の叡智は未だ解明されないことが多くあり、イルミネートでは音楽を核に様々な分野を横断し次世代へ紡いでゆく。

### <補足感想>

- ・枠にとらわれず、見た人それぞれが自由に感じ取ることができ、考え、そして想像することができると思った。
- ・短い時間に様々な内容を盛り込み、とても意欲的な番組になっていると思う。

- 
- ・それぞれの場面に、こちらの意図した事を伝える手がかりとして、何かヒントなどを付け加える事ができるとよりわかりやすくなるのではないかと思う。
  - ・それぞれの場面か最後に、曲目が入っていると一さらにわかりやすいのでは、と感じた。
  - ・世代や国境を越えて、視聴者を飽きさせない、心に響く番組になっていると思う。

以上